

「東京湾第二海堡」インフラツーリズムの取り組みと上陸ツアー催行実績に基づく考察

国土交通省東京湾口航路事務所 正会員 ○久保 哲也
国土交通省東京湾口航路事務所 非会員 成原 啓祐

1. はじめに

平成 30 年 12 月に東京湾第二海堡の上陸ツーリズムが正式決定し、令和元年 5 月から民間旅行業者による上陸ツアーが催行されている。本稿では、これまでの第二海堡インフラツーリズムの既存研究¹⁾²⁾を参考に、関東地方整備局の取り組み内容とツアー開始からの催行実績を分析し今後の課題について考察する。

2. 第二海堡の歴史と建設技術

第二海堡は東京湾のほぼ中央、富津岬沖にある日本初の人工島で、約 130 年前の 1889 年(明治 22)着工、1914 年(大正 3)完成の海上要塞である。西洋土木技術を採用し、我が国の近代土木黎明期における成果として土木史的にも歴史的価値がある。また、千葉県埋蔵文化財包蔵地に登録され、関東地方整備局では極力保存を考慮した保全工事を進め、現在は東京湾中央航路の監視施設や灯台等が設置されている。
(写真-1)加えて、砲台基礎や掩蔽壕等の煉瓦構造(写真-2)や護岸部に間知石を用いた伝統的な築城技術など当時の建設技術をそのまま現存している貴重な遺構である。



写真-1 第二海堡全景



写真-2 煉瓦構造(掩蔽壕)

3. 関東地方整備局における第二海堡上陸ツーリズムの取り組み

港湾関連の公的施設を観光資源とした初の一般公開であり、国や各自治体における観光施策との位置付け、第二海堡が持つ歴史的価値及び土木構造物としての重要性を考慮し公開・開放する必要がある。そこで、地域振興、インバウンドの推進、更にはツアー参加者の利便性向上、集客促進に繋がる効果的な手法について検討を行った。³⁾

(1) 第二海堡に対する認知度・ニーズの把握

2019 年上陸ツアーから 2 つのツアーを抽出しアンケート調査を行った。参加理由は、普段上陸出来ない場所のため、軍事遺構に興味を持つ方が大半であった。第二海堡自体の認知度は約 5 割だったが、詳細な情報を知る人は 2 割に満たなかった。(図-1)ツアーの満足度は非常に高いが、現状での再訪意欲は約 6 割と若干低い結果であった。(図-2)また、改善点として、HP や広報誌の充実、興味を引くジオラマ模型や VR 体験等の要望があった。

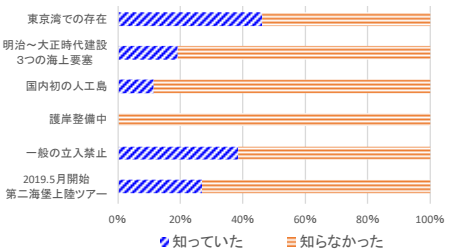


図-1 第二海堡の認知度

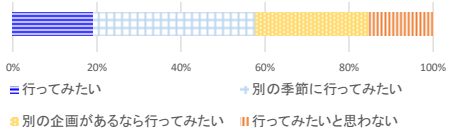


図-2 第二海堡への再訪意欲度

(2)第二海堡における観光振興の目標と基本方針の設定

第二海堡の魅力を広く国内外に発信し、質の高い観光交流と旅行者満足度の向上、更にはコト消費とモノ消費の拡大により、観光・インバウンド促進の好循環を生み出し地域振興に寄与する。(図-3)また、参加者の声から認知度向上やリピーター確保等を念頭に 4 つの基本方針を定め、各々に対する具体的な取り組みを検討・整理した。(図-4)

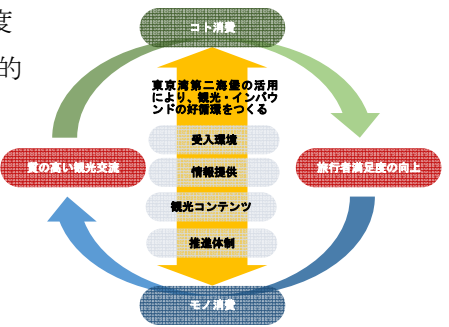


図-3 観光振興の目標

観光・インバウンド好循環に向けた方針と具体的な取り組み	
●観光客の受入環境	見学ルート、案内看板、通信環境等の整備 遺構復元
●情報の提供方法	対象者や媒体毎の特性を整理し、適用を検討 留意点：インバウンド対応、幅広い年齢層、分かりやすさ等
●観光コンテンツの種類	見えないものを見る化(VR、AR、模型、立体地図) +αの魅力(横須賀市・富津市等との観光事業連携)
●推進体制	東京湾海堡ツーリズム機構との連携 大学や有識者との連携

図-4 観光振興の方針と取り組み内容

キーワード 第二海堡、インフラツーリズム、上陸ツアー、インバウンド、地域振興

連絡先 〒238-0005 神奈川県横須賀市新港町 13 番地 東京湾口航路事務所工務課 TEL 046-828-8365

(3)情報提供に関する検討とコンテンツ作成成果

第二海堡の関心度別に対象者を分類し、各々に対応した必要な情報とコンテンツの種類、内容について検討を行い作成に当たった。(図-5) 東京湾海堡ツーリズム機構と連携し、成果の一部を令和2年7月横須賀市にオープンした三笠ターミナル内に設置した。(写真-3)説明用パネルと東京湾立体地図を壁面に設置し、プロモーションビデオや復元模型(全島、砲台内部)、VRゴーグル、広報誌を配置している。オープン式典では、高校生から御年配の方々まで多数見学され、特に復元模型、VR体験は人気が高く、分かりやすい、臨場感が凄いとの声を多数頂いた。

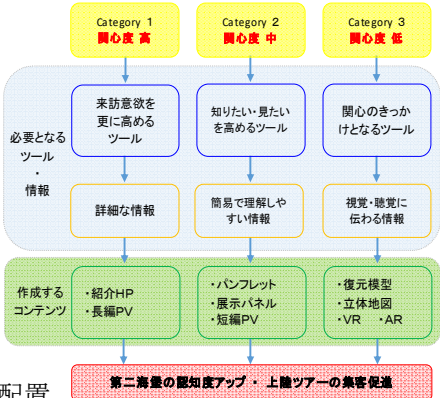


図-5 情報提供検討フロー



写真-3 展示ブース・VR体験

4. 第二海堡上陸ツアー催行実績の分析と考察

2019年5月～2021年2月の約2ヵ年の上陸ツアー催行回数と参加人数を示す。(表-1, 図-6)参加者は延べ4,433人だが、新型コロナウイルス感染防止対策での緊急事態宣言によるキャンセルや運航船舶の乗船人数を減らしたことから、2年目(2020年度)は初年度に比べ約3割減少した。また、申込後のキャンセル率が2019年度平均で約4割と意外と多く、催行人数不足か他の要因かを調査し催行回数向上に繋げる必要がある。次に、催行回数に直結する荒天中止であるが、既存研究²⁾において波浪周期4秒以上で欠航率約25%(=催行率75%)と推定しており、2019年度実催行率年平均と同率であった。また同研究では、上陸ツアーに適した月として2月、4～6月、10～11月を推定していたが、2019年度実績との比較では春期のみが一致しており、今後もデータを蓄積し詳細な検証が必要と考えられる。また、2020年度は7月～12月の約半年間のみの催行であったが、ツアー1回当たりの平均人数は45人と前年と大きな変動はなく、これはツアー募集定員のほぼ上限であり、上陸ツアーの人気度が高いことが伺える。

開催月	①申込回数	②キャンセル数 (即時キャンセルを含む) ※2	③キャンセル率 ②/①	④計画回数 ①-②	⑤荒天中止 回数	⑥催行回数 ④-⑤	⑦催行率 ⑥/④	⑧参加人数	⑨ツアー当たり 平均人数 ⑧/⑥									
4月	-	9回	-	100%	0回	-	0回	-	-									
5月	15回	7回	3回	7回	20%	12回	0回	2回	10回	83%	-	444人	-	44人				
6月	12回	5回	2回	5回	17%	10回	0回	2回	8回	80%	-	463人	-	58人				
7月	8回	5回	1回	1回	13%	20%	7回	4回	0回	2回	100%	50%	189人	83人	27人	42人		
8月	5回	5回	2回	1回	40%	20%	3回	4回	1回	0回	2回	4回	67%	100%	138人	192人	69人	48人
9月	18回	5回	1回	0回	6%	0%	17回	5回	3回	0回	14回	5回	82%	100%	589人	211人	42人	42人
10月	17回	16回	8回	6回	47%	38%	9回	10回	5回	3回	4回	7回	44%	70%	271人	325人	68人	46人
11月	13回	15回	6回	0回	46%	0%	7回	15回	3回	2回	4回	13回	57%	87%	241人	572人	60人	44人
12月	7回	12回	1回	2回	14%	17%	6回	10回	1回	5回	9回	83%	90%	159人	404人	32人	45人	
1月	8回	9回	6回	9回	75%	100%	2回	0回	0回	2回	0回	100%	-	88人	-	44人	-	
2月	11回	8回	7回	8回	64%	100%	4回	0回	2回	0回	2回	0回	50%	-	64人	-	32人	-
3月	8回	-	8回	-	100%	-	0回	-	0回	-	0回	-	0%	-	0人	-	0人	-
合計	122回	96回	45回	48回	37%	50%	77回	48回	19回	8回	58回	40回	75%	83%	2,646人	1,787人	46人	45人

※1～※4 2019年度、2019年度5月～2020年3月1日 ※5～※7 2020年度、2020年4月～2021年3月1日

※1～※4【2019年度:2019年5月～2020年3月】 青列【2020年度:2020年4月～2021年2月】

※2～※4キャンセル数:新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うキャンセル含む。

表-1 月別ツアー催行回数・参加人数

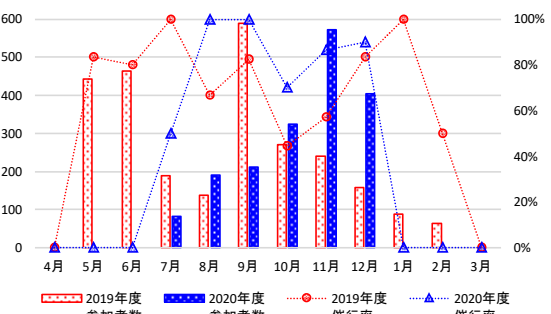


図-6 月別参加者数・催行率

ツアー会社別催行回数割合を示す。(図-7)2019年度は、ツアー開始初年度のためか、支店別含む総勢26社からの申込があり、中でもA社は催行29回と全体の約5割を占め、参加者も1,081人と全体の約4割であった。2020年度の申込は、総勢13社と半減したが、前年同様A社が催行25回、参加者1,138人と全体の6割以上を占めた結果となった。上陸ツアーの申込が複数社ある場合は、抽選で決定しているが、催行会社の偏りが新規参加者やリピーター確保にどう影響しているのか、今後更に分析が必要である。

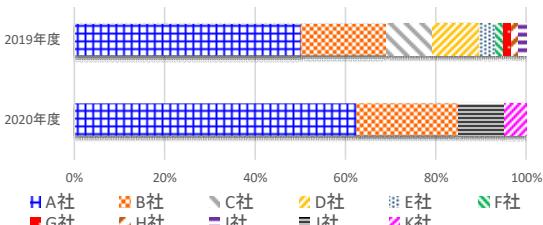


図-7 会社別催行回数割合

4. おわりに

持続可能なインフラツーリズムの実施に向け、関係機関と連携を図り進めている。今後も地域振興やインバウンドの推進に繋がるよう、第二海堡上陸ツアーの動向を継続的且つ多面的に研究する必要がある。

参考文献 1)野口孝俊, 阿部貴弘: 東京湾第二海堡跡におけるインフラツーリズムの成立に関する実践的検討: 第58回土木計画学研究発表会・講演集 2)野中貴子, 野口孝俊, 阿部貴弘: 持続可能なインフラツーリズムの実

施に向けた課題と効果に関する考察: 第59回土木計画学研究発表会・講演集 3)国土交通省関東地方整備局東京湾口航路事務所: 東京湾中央航路第二海堡観光促進検討他業務報告書, 2019